しあわせ

6　月　号

神力无極の阿弥陀は（じんりきむごく）
无量の諸仏ほめたまふ（むりょうしょぶつ）
東方恒沙の仏国より（とうほうごうじゃぶっこく）
无数の菩薩ゆきたまふ（むしゅぼさつ）

（『浄土和讃』三二）

極みなき阿弥陀仏の救いのはたらきを、無量の諸仏が讃えられており、東方のガンジス河の沙の数ほどもの仏の国々から、無数の菩薩が往生されています。

「手を合わす母」

最初は、暖かくなったら終息するだろうと高をくくっていた新型コロナウイルスが、五月の連休を超えても終息の見通しはたたなかった。

一昨年から昨年にかけては、日本列島は風水害に襲われ大変だった。世界中が自然災害で地球存続の危機さえ語られる中でのコロナ騒動。次から次へ思いがけない困難が押し寄せる。

諸行無常、全てのものは常にあらず。非常事という言葉があるが、本来この世に常なるものはなかった。

自然に限らず、我が肉体が心が、そして世界中がものすごい勢いで変化している。動いている。じっとしているもの、確かなるものは何もなかった。確かなもののない厳しいこの世を生きる私達に阿弥陀さまは、声の仏さま・お念仏となって寄り添ってくださっている。「いつも一緒だよ」と。

法座案内

安居会法要

六月　四日　昼席・夜席
　　五日　昼席

講師　三浦真証師（奈良県　本願寺派布教使）

法味の会　ーご和讃の味わいー

六月二六日　午前十時～

※本堂内は二四時間換気をしておりますが、お参りの際はマスク着用をお願い致します。

府中町山田一丁目二一五十三
栢原山　龍仙寺
電話（〇八二）二八一四八二三

【ご和讃をよむ㉕】～仏の世界の中心に～

今回のご和讃は『仏説無量寿経』のなかの往覲偈という偈文のこころを讃えられたもので、東方のガンジス河の沙の数ほどもの無量の仏がたが阿弥陀さまを讃えておられ、それによって、数えきれない菩薩が阿弥陀さまの浄土へ往生されていると讃えられています。ただし、次の三三首目には「自余の九方の仏国も　菩薩の往覲みなおなじ」とあり、東方だけでなく、十方の世界から同じように無数の菩薩が往生していると讃えられています。東方から話がはじまっているのは、インドでは東南西北の順で方角を数えるからであり、じつはあらゆる世界の仏がたが阿弥陀さまを讃えておられ、あらゆる方角から無数の菩薩が阿弥陀さまの浄土に往き生れているというのですね。つまり阿弥陀さまは、あらゆる仏の世界の中心におられることになります。これはどのようなおこころでしょうか。

新型コロナによって「非常」事態となった日本も、五月に入って「日常」にもどる道が模索されはじめました。お寺もほぼすべての行事が中止となり、肌身に「非常」を感じていましたが、わたしたちはようやく非常から日常へ戻ろうとしています。もちろんそれは誰もが願わずにおれないことですが、一方で、いのちの現場に「常」ということがあるかどうか、あらためて考えさせられます。

そもそも日本では、インフルエンザでも年間に数千人亡くなっておられ、交通事故でも数千人亡くなっています。年間に亡くなられる方は一三〇万人を超え、一分に二人以上、どこかで人が亡くなっていることになります。まさに死の縁無量、いつ何が起こっても不思議ではない。むしろ今日という一日をいただいていることこそ、非常事態なのでしょう。仏教では、諸行無常、すべてのものは常ではないと説かれます。今日という一日がまっさらであり、あたりまえの日々などどこにも無いのだと。わたしたちが日常という言葉のなかに、かけがえのない命を、代えがきくように見ているならば、それは見ているのではなく、命を見失っているのですね。そして、わたしが見失っている命をかねて見通してくださっている方こそ、阿弥陀さまでした。

先日、娘たちと境内を清掃していたとき、五歳の長女が、一か所、排水口がつまっているのを見つけました。玉砂利の下に隠れているので、まず泥だらけになっている玉砂利をぜんぶ出して、ホースで洗うことにしました。散水する役は娘がしてくれましたが、勢いが強すぎて、玉砂利を洗っているこちらがびしょ濡れになります。「放水やめ！放水やめ！」と慌てて叫びましたが、一向に止む様子はなく、むしろどんどん強くなります。聞いてみると、そもそも「放水」という言葉が分からなかったようです。続けていると、今度は水がシャワー状に散って弱すぎ、泥がうまく落ちません。「なっちゃん、泥が落ちんけえ集中してかけてみて」と頼んだところ、長女は「わかった！」とたのもしく返答し、集中した表情になってホースを構えました。思わずふきだしてしまいましたが、自分には分からなくても、親のことばをそのまま聞いている娘の姿に、お念仏のこころを教わりました。

わたしたち凡夫には、無常なるいのちを見通すことはできません。しかし、このいのちをかねて見通してくださっている阿弥陀さまの仰せを、仰せのままお聞かせいただくところに、あらゆる人々が浄土に生まれて仏となる道がひらかれていました。阿弥陀さまが、十方のあらゆる仏がたの世界の中心におられるとは、阿弥陀さまの仰せが、あらゆる人々のいのちを照らし、導き、抱きつづけてくださることを教えてくださっているのですね。ともに、お聞かせにあずかりましょう。